

スタッフインタビュー④

Y. Y

- ・ 史跡名勝分野
- ・ 2011 年入社／新卒採用
- ・ 園芸学部緑地環境学科 卒/園芸学研究科 修了



入社のきっかけ

幼少期から歴史的な街並みや建物に憧れがあり、大学は空間をデザインする仕事に就きたいと考え、大学で造園学を学びました。新しい空間の設計よりも、日本庭園など歴史的な空間のデザインに興味を持ち始めた頃、お世話になっていた先生に「文化財庭園の設計の仕事がある」と今の会社を紹介していただき、インターンシップを経験後入社し、庭園担当として業務に携わっています。

学生時代は設計事務所でのアルバイト経験はありましたが、入社後は想像していた設計事務所の様子とは異なり、初めての体験ばかりで非常に驚かされました。まず特徴的だったのが、発掘調査との関わりでした。史跡整備では発掘調査の情報を元に設計検討が進められます。対象となる遺構の性格や形状を把握する上で、発掘調査現場で調査員の方に解説を受け、復元形状を決定するためのやり取りを進めながら検討していきます。微妙な土層の色の違いや土器の作り方といった遺物の状態から、遺跡の年代を特定することは、考古学の世界と縁遠かった自分にはとても新鮮なことでした。

地元の知恵や熱意を受けて仕事をする

学生時代の設計実習では設計提案までで完結しますが、実際に整備工事を進めるに当たり、設計監理という立場に立って現場に指示を出すことに戸惑いがありました。最終的な形状だけを注視するのではなく、自分が作成した図面を施工者に理解してもらうこと、施工方法が実現可能なものかどうか、工事の動線が確保できるか等は業務を始めてからその重要性を認識することとなりました。また、史跡整備においては地下に遺構が存在するため、対象地によっては遺構面と現況面のクリアランスが取れず、使用で



工事監理での寸法確認

きる重機にも制限が加わることがあります。このような文化財独特の制約条件は、通常の造園工事の考え方とは異なるため、施工業者に理解・協力して貰うことも重要な点です。ただし、その地域にある歴史的な価値のある空間であることから、整備に関わる方の熱意が高く、厳しい条件であっても理解し対応していただけることが多いです。私の現場での経験が未熟であることから、地域毎の造園技術の違いやより良い材料の提案等、地元の施工会社の方に教えていただくことが多く、大変ありがたく心強く感じています。また近年は維持管理の課題も多く、長期的な視野で設計や材料選定を行う必要があり、最近はその点を重視した検討を進めています。

時代ごとの美意識にふれる楽しさ

庭園というカテゴリを担当しているため、平泉の平安時代の庭園から、小田原の戦国時代の庭園、近代の庭園に至るまで、他のスタッフと比べても比較的幅広い時代区分の業務を扱っていると思います。それぞれの時代ごとの特徴や文化的な背景を理解することに苦労はありますが、その地域独特の文化に触れる経験が興味深く、楽しんで仕事をしています。個人的には平安時代のおおらかな空間構成が好きですが、戦国時代の石組も庭園毎に個性があり興味を持っています。

文化財の整備事業は長期に渡る場合が多く、私は入社してから関わっている業務を現在もいくつか担当しています。設計前の整備計画から、基本設計、実施設計、工事監理と担当者として関わっています。実際の工事は文化財独特の制約が多く、時間や労力を要する部分が多々ありますが、長期的に事業に関わるからこそ知ることができる庭園の風景や特徴も大変魅力的です。



江戸時代の庭園整備



平安時代のお堂前面の埴敷(せんじき)の整備

専門分野を越えて業務にコミットできる

史跡単独の業務が主流となりますが、史跡の整備と共にガイダンス施設を設計する業務や、史跡内に建造物を整備する業務、建造物の整備に伴い外構の庭園等を整備する業務など、建造物担当と協力する業務があります。社内に別分野のスタッフがいることでお客様から専門外の相談を受けた場合も対応が容易であり、これが当社の大きな強みであると感じます。また様々な業務を経験しているスタッフが集まっているからこそ、業務で悩んだ際に相談し解決に向かえることも多く、近年の組織改編で建造物スタッフと定期的な社内打合せができるようになり、そのメリットを享受できていると思います。

仕事が趣味に生きてくる

休日は映画鑑賞や友人と食事や旅行を楽しむことが多いですが、コロナ禍で出張が制限され、在宅勤務が続いたタイミングで篆刻を習い始めました。設計の仕事は、お客様や協力会社の方、施工会社の方との調整毎が多く、複雑なコミュニケーションが要求される仕事だと感じます。文化財の仕事に携わるうちに、職人さんに接する機会も多く、自身の能力でモノを作ることの魅力を感じ、私もその感覚を持ちたいと思い印を彫っています。展覧会をお手伝いや異なる業種の方にお会いする機会も多く、普段と違う環境の中で良いリフレッシュになります。集中して彫った印に達成感があります。仕事柄、偶然書の作品に接する機会もあり、ついつい印を鑑賞してしまいます(笑)

